

海外調査	
画家エレオノール・エスカリエによる新たな装飾表現の探求	
氏名 志水 圭歩	所属 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻
期間	2026 年 1 月 12 日～2026 年 2 月 14 日
場所	フランス、パリ市
施設	フランス国立図書館、パリ装飾美術館図書館等

1. 本調査の目的

本研究では、絵画分野と、絵画等に比べて「偉大さ」で劣るとされていた陶磁器等の分野、その双方を行き来して制作を展開したフランスの女性画家、エレオノール・エスカリエ(1827-1888)を取り上げる。彼女は、国を挙げて産業振興が推進された 19 世紀後半のフランスにおいて、画家として培った力で陶磁器や装飾パネル等の産業的な作品の装飾改良に貢献し、国家から注文制作を請ける等、高く評価された。だが、従来の美術史研究では、制作分野間のヒエラルキーに囚われずに、様々な分野を行き来したその活動が考察されることはほとんどなかった。先行研究では、主に陶磁器分野に偏って考察されるに止まる。そこで本研究では、エスカリエが手掛けた多岐に亘る制作を横断的な視点で分析し、彼女が志向した新たな装飾表現を明らかにする。これにより、それまで絵画等に比べて「格下」扱いされていた陶磁器等の「地位」向上を求める動き等、今日もなお芸術界に認められる、こうした旧来の伝統的な芸術観に対し揺さぶりを図った、当時の芸術を取り巻く諸相を解き明かすことを目指す。

2. 得られた成果

フランス国立図書館やパリ装飾美術館図書館に所蔵される、1864 年の産業応用芸術中央連合の設立～1882 年の装飾芸術中央連合の設立経緯等に関する文書、当時の重要なデザイン理論家の著書をはじめ、これまでその内容を詳細に把握できなかった、19 世紀後半の女性画家に関する博士論文¹を閲覧することができた。

3. 今後の展望

本調査成果は、報告者の博士論文として執筆するほか、日仏美術学会や美学会における論文投稿を考えている。報告者は、既にフランスにおけるエスカリエの研究者と情報交換を実施しているが、今後もイニシアティヴを発揮し研究ネットワークの構築を積極的に図り、エスカリエの包括的な研究の充実に向けて貢献してまいりたい。

注

1. Denise Noël, *Les Femmes peintres au salon : Paris, 1863-1889*, thèse de doctorat sous la direction de Michelle Perrot, Université de Paris VII, 1997.

参考文献

天野知香『装飾/芸術: 19-20 世紀フランスにおける「芸術」の位相』ブリュッケ、2001 年

しみず かほ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

The quest for a new decorative expression by the female painter Eleonore Escallier
Kaho SHIMIZU